

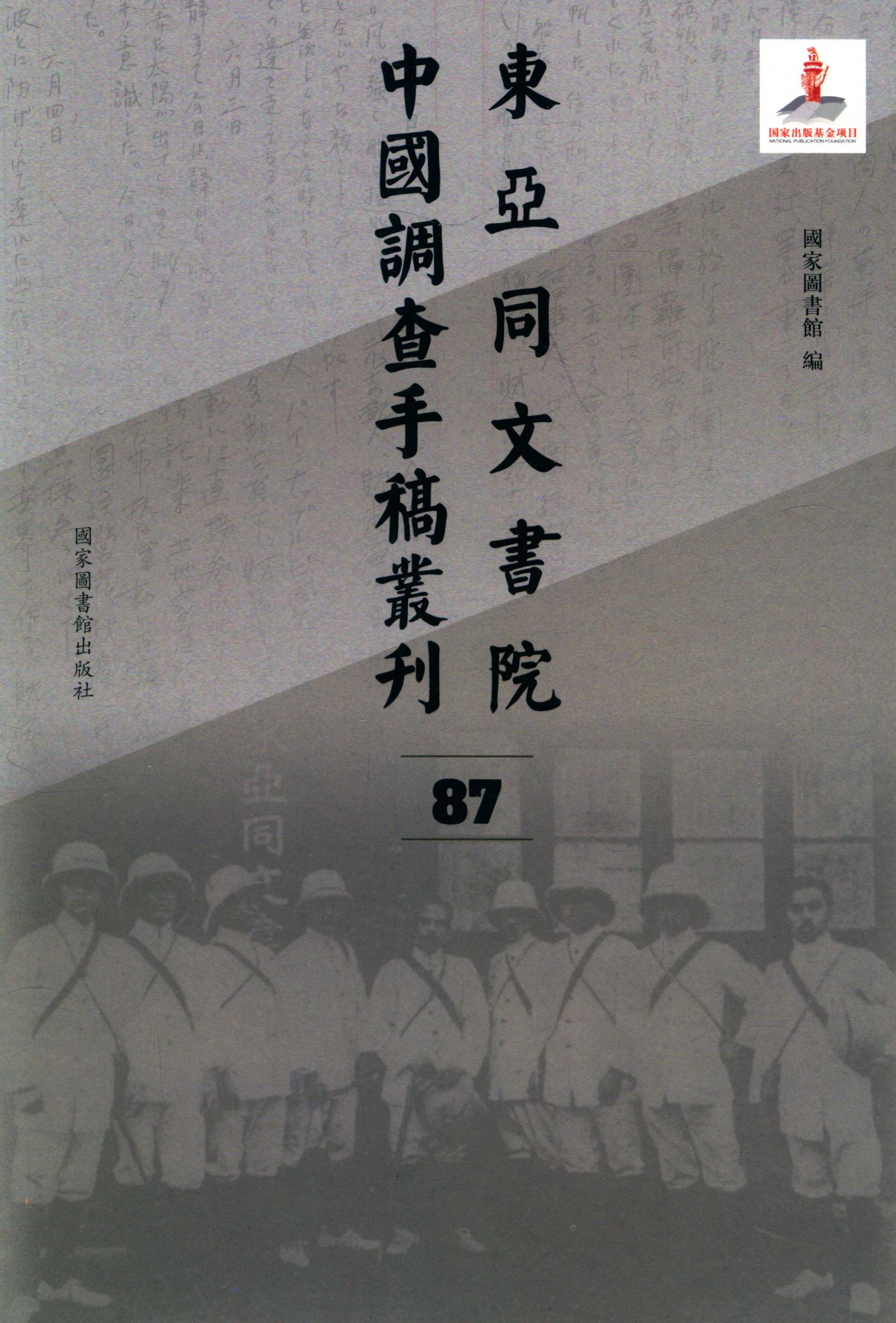


國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

87

國家圖書館出版社



國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

87

國家圖書館出版社

第八七册目錄

昭和二年（一九二七）調查報告（第二十四期生）

佛領印度支那及暹羅ニ於ケル華僑ノ經濟上ノ活動

法屬印度支那及暹羅華僑的經濟上の活動

佛領印度支那貿易調査

法屬印度支那貿易調査

安南人ノ生活狀態

安南人的生活狀態

佛領印度支那交通、暹羅鐵道調査（一）

法屬印度支那交通、暹羅鐵路調査（一）

小島正英

第十卷第一編

.....

一

藤田良次

第十卷第二編

.....

九三

松田義雄

第十卷第三編

.....

三五五

山本治

第十卷第四編

.....

四九九

上海東亞
圖書院
圖書部印

印度支那經濟調査

佛經印度支那及び暹羅ニ於ケル

華僑ノ經濟上ノ活動

第一章 佛經印度支那ニ於ケル華僑

第二章 概説

中南の昔より頗る東南ト于係し深々國孔んと國時ニ又
東南人自身と亦強シド東南人ニ似通る人種孔んと
昔の東南各朝ノ朝貢國トシテ又リ彼中ニ包含せうレタ
ルニエアツタ

今東南ノ發生ノ起原ニツケテ考察シテ見ルニ經考ノ

發祥、地の雲南山地ト云フハ、其ノ境界地ヲ示スル細線ハ
 如何ナル経路ヲ辿ルテ今ノ地ニ来レルヤヲ見ルニ一ハ即チ雲
 南方面ヨリ東来ララス、又南シテ、他ノ一ハ即チ西南方面
 ヲリ紅河ニ沿ヒテ南下シテ安南ニ出テ、一ハ途中ニ潯
 シテ安南ノヲ生ジヌト云フテ居ル、何レニテモ安南人ハ
 非常ニチ那人ニ近ク、一種ナル一ノ風俗習慣ニ於テ悉ク
 テ、又歴史ノ中ニハ漢文ヲ解スルモノ相當ニ多ク、殊ニ老
 人ニ於テ甚タ多シ、コレ佛政府當局ガ漢字ニ代ルニシテ
 字體ノ安南化ヲ依リ極力ニ漢字ヲ絶滅センレテ努力
 シ、一ツニ依ル、即チ現在ノ安南青年ハ又漢字ヲ習フ
 機会ハ乏シキナリ。

又安南王朝ノ起源ニツキテモ種々ノ説カ、一ハ、

現在、広東、雲南、第一ニカケテ、越ト云フ国ガアツタ、
 其元首紹懿王ハ自令、子百ノヲ東、各ノ各地ニ派シ
 ヲレノニ各地方治メレタ、其最長子雄王ガ此越ニ代
 ヲテ大朗國ヲ建テタガ此國ニ亦周ノ赧王時代ニ又
 那高ニ城ホカレテ後秦代ニ至リテ始皇帝ガ此地ヲ
 征服スルニ及ビテ、南海、桂林、象郡ノ三區劃シテ
 了ツタガ此特南海ノ郡尉趙陀ナルノ独立シテ南越
 王トサツタト、又一説ニハ前漢時代馬援ナルモノヲ
 来リ此地ヲ征服シテ王朝ヲ建テタ之ガ即チ南越王
 ノ、即チ陀ナルモノ云ヒテ升ル、此後ニ丁史ガ此ニ亦地理
 的ニモ若カラフ等南ハ又即チ陀ナル密着ナル干係ガアツ
 ノナル、

集團的移民トシテ最初チ那ヨリ当地ニ来ルハ西一
 一八九九年ニシテ邊和^{ハルビン}及び美ヤ嶽ニ明朝ノ遺臣カ
 數千人在ルナ面ヨリ大畧ニテ移住シテ来タ^{ハルビン}ニアル
 而シテ樺子^{ハルビン}ハ當時チ南王ノ東埔寨征伐ニヨリ
 南軍ニ参加シテ功勞ヲ尽シタル云ハレタ^{ハルビン}。邊和ニ住
 る者ハ主トシテ商業又ハ農業ヲ營ニ善良ニシテ
 溫和ナル移民ナリしが美嶽地方ニ住ルモノハ中ニハ
 不良ノ分子ガ多ク、メコン、海岸ニ砲臺ヲ築キ以テ
 河上上下下所ノ船舶ヨリ勝手ニ稅金ヲ取り立テナリ
 又ハ稅十兩ニ定ム^{ハルビン}。アツメノ事ナシ。

チ那ノ人ハ安南ノ人ノ如ク出タリ子孫ニハ安南ノ人同
 族ナ^{ハルビン}。時トシテハ安南ノ人ヨリモ有利ナル自由特權ヲ

今南王朝の附屬せしむる長久此様ニ有利ナル状態ニ
 置カレテ長久付寄ル人ハ一ノ主税ノ忍耐性ト勤勤性
 トニヨリ経済的又社会的ニ幸福ラシク大ニ其益ヲナシタ
 事ハ言フ迄ニヤリ、佛蘭西ノが当地ニ入り来ル前ニ從
 軍ハ已ニ此地ノ各処ニ牢トシテ拔クバカラハル根強ク
 根底ヲ低リ終リテ了ツテサテテアル、又ハ即チ一ニ述
 るニカ如クニ種々ノ特種ヲ附屬カレタ上高安南ノ一ニハ
 其國ノ者ニ於テモ然ラシカ如ク士農工商ノ別無ク明
 ナニシテ甚外ニシテ士ヲ尊ブト其ニ商ヲ賤シムルノ思想ガ
 盛ニテアル、士即チ一ニ此機ニ乘ジテ商業ヲ興テ以テ
 定金ニ從事ノ者中ニ枚メ以テ巨利ヲ博シ今日ノ發展、
 一原因ヲ作ワタニテアル、

斯ル状態ニテシテ故佛蘭西が此地ヲ手中ニ收メシ後モ此
 二邦人、勢力ニ此所トモテテ能ハズナリト即チテ意ヲ退シ
 テ一高峯否知ハズル事輩ヲモテニ然ル所リシノ故佛トハツタ
 ン故佛最モテテ教ノ士即チガ当地ニ来ツタハ佛蘭西が当地ヲ
 リリヤ中ニ收メシヨリテ然ルヲテハツテ即チ佛蘭西意ト即チ
 意ノ士即チ佛蘭西者拒致ニヨルモノナリ

佛敎即實土耶言ふハ此レノ實地ヲ為種ニテ本事業
ヲ始メタリ。ニル為ニ整、準備者ヲ必要トセリ。而シテニ
ル後始メ先ヅキ近キ安南ノニ求メタルガ、元来ノ体力
ノ弱ク筋骨ノ薄弱ナル上急指テ安南ノ一ニシムニ至リ
テ、結果トスズ。到ル此等要求ヲ満足セシムルガ必要又
此レガ政府當局ハ最モ手近カニシテ、且安南ノニ此レヲ

他力ノ強キ者即チ常働者ヲ多敷ニ就大ニ以テ釋ス
 土木工事等ニ當リシハタノシタ。現在ニ於テ是亦種々
 鉄道、道路工事、又ハ東京方面ノ鉄山等ニハ多敷ノ
 土人常働者ガ從事シテ居リ得タ。土人常働者ヨ
 リテ遙カニ多額ノ賃銀ヲ取リ得タ。即チ土人賃力ハ
 各地ニ於テ異ナル大抵ニ一日最低十仙ヨリ最高四十仙
 位ノ賃銀タニマシタ。土人賃力ハ一日四十仙ヨリ四十仙
 多オニ至リテハ四十仙近ク賃銀ヲ取リ得ルノ概釋シ
 テん。常働能力ニ於テハ土人賃力ハ土人賃力ヨリ
 遙カニ大ニシテハ高率ノ常銀ヲ取ル。是亦土人
 賃力ヲ使用ス方経済的ナリ云レテ居ン。又土人ニシテ就
 ナシ能ハシ仕事ヲ土人ニヤラシメタ。

現在オ郡人（当領在任）ヲ大別シテ商人、農業者
 労働者ニ大別スルガ出来んか、何ト云フモ此中ニテ最モ
 重要ナル地位ニ在ル者ハ商人シテ即チ商業ハ農村偏
 地ノ中産階級ヨリ仲買人、卸商、大都市ノ坐商ニ至ル
 ニテ殆ト商業ノ全權ハオ郡人ニヨリテ握ラレテ居リ、
 彼等ノ手ニヨリテ行ハレテ居ル。従ツテ彼等ハ此方面ニ於
 テ恐ルベキ勢力ヲ有シ居ルト同例ニ土人ノ日常生活ト
 密ニハカシキ深キ関ヲ有シテ居ル。之ニ関シテ今一例ヲ
 示セテ彼等ノ如何ニ土人ノ日常生活ト密接ナル関係ヲ
 有スルヲ以テ明カニシテ見ヤウ。

大正八年カウ同九年ニ至ツテオ郡在任ノオ郡商人ハ
 一切ニ日僑排斥ヲ行フメヲカアツテ、此結果先ヅ自前ニ至ル

5

痛く感じたり、需要者、玄瑠ニアル土人ヲアツタ、即チ
 彼等ハ比較的廉價ニ、之ヲ精巧ナル品ニ修め、需要ニ
 適せん日本貨ヲ求むニ由テ、高價ニ、之ヲ購置カ、
 力ナル土人達、到所里入々、修められ、改米修成ハ和
 意タル即修、之ヲ用井かんひカうかんニ至ツタ、於此カ土人
 ハ報復的ニオボ人排斥ノ口レテ南部オボ即修ノ南
 ニ於テ上カタルテ、其後、其數日ニ、佛同西官憲、
 爲ニ彈圧セウレテ了ツタ、此影響ハ、後急激佛領
 即修オボ金出ニ振がり、之が爲、日本貨ノ需要、其の
 レハ増ハシテ却ツテ日本商人ハ思ハヌ巨利ヲ博シ得タト
 云フテ、其が、俄ニ此聯合佛同西官憲ハ、日貨ヲ排斥
 センオボ人ニ對シ、若シキ彈圧的ノ態度ニ出ス、之ハ、途自ニ

値を上げようとするが、

佛蘭西人の経営自己の経営を、会社、商店、銀行の
殆んど全部を、銀行の信用に、而して此等、土邦人の資本が
乏しいと、会社、商店、事務、銀行、殆んど全部を、銀行に、
依存せしむ、元來佛蘭西人の、強ん、感懐的、國民、短
氣、利、殖、之、當、地、に、任、し、て、一、著、し、く、官、僚、的、の、人、同、多、う
何れ自身に、い、に、到、り、商、賣、を、行、う、に、行、く、が、出、る、と
故、に、銀行、の、商、賣、に、於、て、大、資本、の、才、能、が、有、る、土、邦、人
が、中、に、其、中、に、多、う、金、錢、を、入、り、に、限、ら、ず、殆、んど
土、邦、資本、の、全、部、を、掌、う、し、メ、テ、其、の、中、に、
土、邦、人、の、農、業、者、の、さ、う、さ、う、中、に、多、う、自、ら、田、地、を、耕
作、す、る、と、す、る、が、故、に、大、都、合、の、新、滑、農、業、者、也、

家階級ニ属せんモノナシ。中ニ自ラ大ナル田地ヲ有シ
之ヲ工人小作人ニ耕作セシメテ居ル者或ハ又又此又
那方面ニ於ケル農園ノ如キモノカ。保シ大勢ノ
者ハ自ラ多額ノ資金ヲ辦シテ之ヲ工人ノ地主或ハ
農夫ニ貸付セン。即チ耕作ハ地主或ハ農夫ニ
或ハ金銭ヲ貸付シ更ニ豪農ヲシテ小作人ニ耕作
セシメテ收穫期ニ至ラズ現金又ハ主ニテ農作物
ヲ以テ之ヲ回收スルモノナシ。

今メコレ何ヲ以テ果ナシト有ルヤ。西ニ米ニツキテ
ノ一例ヲ示シテ見ル。

土ノ或ハ一定ノ時期ニ於テ小作人ヨリ金ヲ借リ收穫
期ニ至ラズ青田デ之ヲ小作人ニ賣リ以テ前借ル金

革命運動ノ有力ナル精神的、又物質的ノ援助者ナリ。
従テ其邦政府ニ対シテ有力ナル要求ヲ提シ
テ其ハ当地ノ旅行者ハ何レ地ニ於テモ会報、工場或
ハ旅報又ハ汽船（往來ノ経路ニモ）其ノ中ニ有テ
孫中山ノ遺訓（革命未成）ノ句ヲ掲ゲラレテ居ルヲ
見ハ、往來ハ以前ニ於テ日英排中主義ノ岸ヲ敢テ
テシタガ現在ニ於テハ我國ニ対シテ良好ナル感情ヲ持
ツテ居ルヤウナル。

此ニ此等ノ方即チハ其邦ノ如何ナル地方カウ出タモレムカ。
ト云フ方面ヲ考釋シテ見ルニ即チ往來ノ大部ハ福建、廣東
ノ兩省ヨリ發信シテ来タモレムカ。即チ此兩人、福人、潮人
人、瓊人、各家人ヲ引リ、而シテ其等ノ其邦ノ夫々ノ上